

アパレル製品設計の基本

最終製品としてのアパレルの製造とその性能、性能試験法、リサイクル、企画設計に関わる流行について学びます。

アパレルは、人のサイズや体型に合わせて作られ、着用時に必要な性能、耐久性を備えて製品として販売されます。その時代の流行にあわせて企画デザインすることも必要です。さらに現代の生活の中では、地球環境規模、有限の資源を前提として、生活する人間の健康を踏まえ、より豊かな、安全な、美しい外観の、快適な着心地が得られるアパレルを設計することが望まれています。

消費者には、その人にとって魅力的な着想を考え、適正な取り扱いをして長く着ていくとともにリサイクルと廃棄について最適なアパレルを選択することが望まれます。時代とともにアパレルに対する消費者の意識も変化していく中、アパレル製品を企画設計するうえで必要な知識を身につけると共に、これからの時代に求められる製品設計のための一助になることを期待しています。

1. 概論（10:00～10:30）

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授 井上真理

1970年代、80年代のアパレル用布地と現在用いられている布地とを比較してみると随分様変わりしました。海外から価格の安い製品が多く入ってくる中、日本国内の生産現場の事情も大きく変化しています。そのような背景の下で、本テキスタイルカレッジの流れを概説します。

2. 人体と衣料サイズ（10.30～11.20）

元（株）ダーバン 相馬成男

アパレル企業が、身体にフィットした衣服を企画・設計して製造するためには、ターゲットとする人体の寸法と形のデータが必要です。また、消費者は衣服購入時にサイズを必ず確認します。ここでは、人体計測法とJIS衣料サイズシステムの基礎および現在検討が進められています衣料サイズ国際標準化の動きについて講義をします。

3. アパレル製造工程（11.30～12.50）

（株）レフトバンク 取締役 岡 卓之

デフレ経済という時代の流れと共に、日本のアパレル業界は、生産の多くを海外シフトし、いつの間にか日本国内で生産現場に接する機会は激減してしまいました。現場を知る事は、商品としての付加価値を理解する為にも非常に大切な事です。あらためてアパレル製品の企画立案から物づくりの一連の流れを時間軸をベースに説明します。

4. 布の実用性能（13.50～14.40）

（一財）カケンテストセンター 大阪事業所 森 秀樹

アパレル製品を作成する時の基本として、生地選びの際の基本性能確認とも言える、染色堅ろう度試験や物性試験及び安全性確認としてのホルムアルデヒド試験、生地素材の混用率試験の簡単な説明と、代表的な機能性試験を説明します。

5. 商品表示と品質保証（衣料品の事故事例）（14.50～15.40）

（一財）ボーケン品質評価機構 業務部 大阪業務課 研修センター長 平岩清隆
商品に付記する表示は、その商品情報を消費者に正確に伝えるために重要なもので、商品の顔と言っても過言ではありません。商品表示の種類と役割について簡単に説明します。また、より良いものづくりの参考に、実際に発生した衣料品の事故事例を紹介し、その原因について説明します。

6. リサイクル（15.50～16.30）

繊維リサイクル技術研究会 委員長、京都工芸繊維大学 名誉教授 木村照夫
21世紀型持続可能社会の構築に対して循環型社会形成の必要性が叫ばれる中、我が国の繊維廃棄物のリサイクル率は10～20%程度に留まっています。何故リサイクル率が低迷しているのか、回収システムはどのようになっているのか、どのようなリサイクル技術があるのかについて、おもに衣料品を対象に海外の動きも取り入れながら概説します。

7. 流行の周期「人の感性がつくる流行の周期」（16.40～17.40）

（株）感性リサーチ 研究員 手塚祐基
大好きだった去年の服が、今はもう着たくない。そんな気持ちになったことはないだろうか？実は、「良いもの」が永久に良いわけではない。好き嫌いの判断も変化してしまうのだ。ある周期で変化する人の感性について知ろう。◇流行はなぜ起こる？商品やブランドの寿命は？◇感性の変化を新商品開発や営業に活かすには？

■日時：平成30年2月19日（月）10:00～17:40

■会場：大阪科学技術センタービル
大阪市西区靱本町1-8-4
<http://www.ostec.or.jp/>

■アクセス：地下鉄四つ橋線「本町駅」下車
28号出口北へ徒歩5分

■定員：30名
定員になり次第締め切らせて頂きます。

■参加費：（税別）

会 員：15,000円 協賛学協会員：15,000円
非会員：23,000円
学生会員：3,000円 学生非会員：5,000円

■協賛：大阪染色協会

■申込方法：
学会ウェブページよりお申し込み下さい
<http://tmsj.or.jp/college/>

■お問合せ：日本繊維機械学会

Tel：06-6443-4691／Fax：06-6443-4694

E-mail：info@tmsj.or.jp

Textile College